

# れんけい

第33号

平成29年7月  
発行

地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター  
Gifu Prefectural General Medical Center  
地域医療連携センター



## 新専門医制度の始まりに向けて思うこと

岐阜県総合医療センター 主任部長兼外科部長  
河合 雅彦

医師の偏在が助長される恐れがあるなどの懸念が示され、当初予定の2017年度スタートが延期となった『新専門医制度』ですが、その後地域医療に考慮したプログラムを構築することや、東京・神奈川・愛知・大阪・福岡の5都府県では専攻医の募集定員の上限を設定し都市部への集中を防ぐなどの対策をして2018年4月開始を目指し、準備が進められています。外科専門医制度においても日本外科学会が主導し新しい研修プログラムの作成提出が求められ、すでに全国で188件の外科専門研修プログラムが承認されています。岐阜地区では岐阜大学高度先進外科(旧第1外科)・腫瘍外科(旧第2外科)が共同して各関連病院も含めた大きな病院群を形成した『岐阜大学外科専門研修プログラム』を作成し、2017年度から試行が始まっております。

『岐阜県地域医療構想』のデータによると岐阜県の人口10万人当たりの医師数は、改善傾向にあるものの、2014年時点で202.9人、全国37位と全国平均を下回っ

ています。全国的に医師不足が指摘されてきた小児科、産科・産婦人科、麻酔科、救急科などは岐阜県でも絶対数は不足しているものの一定数が維持されており、2006年と2014年の比較では、小児科210人→236人、産科・産婦人科158人→161人、麻酔科52人→84人、救急科42人→44人と増加しています。これに対し外科医は327人→226人と100人も減少しています。当センターでも2017年度は一人も外科へ進んでくれる後期研修医がおらず、このままでは岐阜県の外科医がいなくなってしまうのではないかと危機感を持たざるを得ません。岐阜県に全国から外科専攻医が集まって来てくれるような魅力ある『岐阜大学外科専門研修プログラム』としていかなければなりません。当センターでも救急の外科当直明けは週休が取れるよう手術をフリーとし、外科医の加重労働を減らす取り組みを行っています。近隣の先生方ともますます病病連携や病診連携を進めて、リハビリ転院や基礎疾患の治療あるいは化学療法中のサポートなどお任せできることを支えていただき、是非若手外科医のますます働きやすい環境づくりにご支援を賜りますよう今後ともよろしくごお願い申し上げます。

連携医の紹介

こめの医院

医師 伊藤 恒夫



マック赤坂さんとスマイル

私が開設した診療所は、羽島郡笠松町米野にあります。地名のこめのを医院の名前に使わせていただいています。

現在は、内科・小児科が中心の外来診察となっています。年齢、性別、国籍を問わず、胎児、妊婦、小児、成人、長寿の方まで、家族全員の方の、感冒、腹痛、頭痛、腰痛、外傷、生活習慣病、健診結果などの相談を受け診察をしています。必要時には、岐阜県総合医療センターなどの専門医に紹介状を作成し、紹介させていただいています。

外来診療時間外や休日にも、患者さんを岐阜県総合医療センターへ紹介することが多々あり、突然の電話、すべてに対応していただき感謝しております。

私は、これからも医療を通じ、医師として社会に関わり、奉仕していきたいと思えます。この地で診療が続けられているのも、岐阜県総合医療センター、はじめ、多くの医療関係者、皆様のおかげだと感謝しています。

皆様のご健勝とご自愛をお祈り申し上げます。

すべては あなたの 笑顔のために



▲岡本太郎さんの作品の前に立つと、元気になります。縄文土器が芸術だといわれ、驚き、感動してからファンになりました。



▲いにしえより 夜を明ける太陽が 今日も現れる。笠松 木曾川堤より 平成29年3月18日6時ごろ。

名称 こめの医院  
 医師 伊藤恒夫 伊藤美香  
 住所 〒501-6031  
 岐阜県羽島郡笠松町  
 米野243番地  
 TEL (058) 387-6010  
 診療科 内科・小児科・産婦人科  
 アレルギー科・整形外科  
 リハビリテーション科  
 診療時間 午前8:00~12:00  
 午後4:00~ 7:00(火曜午後休診)  
 休診日 日曜・祝祭日・火曜午後  
 駐車場 17台

## 診療科の紹介

### CR-GNet 岐阜心臓リハビリテーションネットワーク

近年、有酸素運動を中心とした運動療法が心臓病に極めて有効であるという報告が多数なされています。この運動療法を中心とした治療法は「心臓リハビリテーション」と呼ばれ、現在では心臓病治療の重要な柱の一つとなっています。「心臓リハビリテーション」を実施するためには、医療部門からスポーツクラブ部門まで様々な人々が職種を越えて取り組んでいくことが重要であり、また、予防医学の観点からも長期にわたり継続していくことが重要です。岐阜地域においては、H18年より各医療機関・各医師会の共同作業で急性心筋梗塞の地域連携パスが作成され、H19年より運用が開始されましたが、より長期にわたり心臓リハビリテーションを継続するためのシステムとして、岐阜県の協力のもとCR-GNet (Cardiac Rehabilitation-Gifu Network) が立ち上げられました。CR-GNetは、幅広い連携体制を作り上げていくこと、また、情報を共有し、心筋梗塞後の心事故発生の予防・生活の質の改善を図ること、生涯にわたる関わりを可能とすることを目的としていま



運動療法の様子



心肺運動負荷試験

副院長兼循環器内科部長  
野田 俊之  
心臓リハビリテーション部長兼循環器内科主任医長  
谷島 進太郎



心臓リハビリテーションチーム

す。CR-GNetに参加しているスポーツクラブでは、研修を受けたトレーナーが在籍し、患者様それぞれに適した運動を安全に行うことができます。

CR-GNetの運用においては、当院がその中核を担っており、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・臨床心理士・臨床検査技師らが協同し、立ち上げから運用において関わってきました。運用にあたり、「すこやかハート手帳」を作成し、基本情報・急性期病院とかかりつけ医の治療記録等を共有しており、また全ての患者様に同じ内容で指導が行えるよう「すこやかハート手帳指導編」を作成し生活指導にあたっています。現在、約190名(内、当院では約130名)の登録があり、かかりつけ医やスポーツジムとの連携をはかっています。今後、心筋梗塞患者様のみにとどまらず、対象を心疾患患者様全般に広げ、岐阜県下全域でシステムを運用する予定となっております。



栄養相談

## Topics

## 高次元放射線治療センターの紹介

高次元放射線治療センター技師長  
奥田 吉彦

4月より中央放射線部は診療支援部門と治療部門に分割され、治療部門は高次元放射線治療センターという名称になりました。

当院では現在400件を超える放射線治療を行い装置1台では限界になってきました。また、定位放射線治療(SRSやSRT)や強度変調放射線治療(IMRT)にも可能な範囲で対応していますが、県民の要望に十分に答えられていないのが現状です。そのためにSRSやIMRTといった高精度治療を希望して県外の医療機関を受診される方も数多くいらっしゃいます。そこで、これらの要望に応えるべく、高次元放射線治療センターは今後、高精度放射線治療の充実と放射線治療人数の増加に対応した施設を整備すべく人材育成、放射線治療装置の整備等の充実を図っていきます。

現在は放射線治療専門医師2名、がん放射線療法看護認定看護師1名、診療放射線技師3名(うち医学物理士2名、放射線治療専門放射線技師1名)での運用ですが、近い将来には医師3名、看護師2名、診療放射線技師9名(医学物理士を含む)での体制を整え、院内、県内のがん患者さんのニーズに応えられる放射線治療センターを整備してまいります。放射線治療装置も現在使用中の汎用タイプの放射線治療装置を更新するとともに高精度治療が可能な装置を整備し県民の要望に応じていきたいと考えています。



## ●定位放射線治療(SRSやSRT)

病巣にピンポイントに放射線を集中させて、短期間にがんを消滅させる放射線治療。放射線を多数の方向から入射することにより病変部の投与線量を非常に多くしても、周辺の正常組織の線量を低く抑えることができる。

## ●強度変調放射線治療(IMRT)

病巣に放射線を集中させるのみならず、周囲の正常組織への線量に制限を加えてより副作用・後遺症の少ない状態でがんを消滅させる放射線治療法。放射線の入射方向毎に線量分布に強弱をつけることにより病変の直ぐそばにある正常組織の線量を抑え副作用の発現率を低く抑えることができる。

## ●高精度放射線治療装置

大きく分けて汎用機リニアックタイプと特殊装置に分類できる。汎用機リニアックタイプは、形状は従来の放射線治療装置だが放射線照射口を制御する板状の多段絞り(MLC)が5mm以下であり細かな制御ができ、高精度な位置決め装置と6軸制御の治療寝台により照射位置の再現性が良く、高速照射機能で短時間に照射が終了するような設計となっているのが特徴である。一方、特殊装置には定位放射線治療に特化したサイバーナイフやIMRTに特化したトモセラピーなどの装置がある。

Topics

# 病院機能評価を受審して

副院長兼循環器内科部長  
野田 俊之

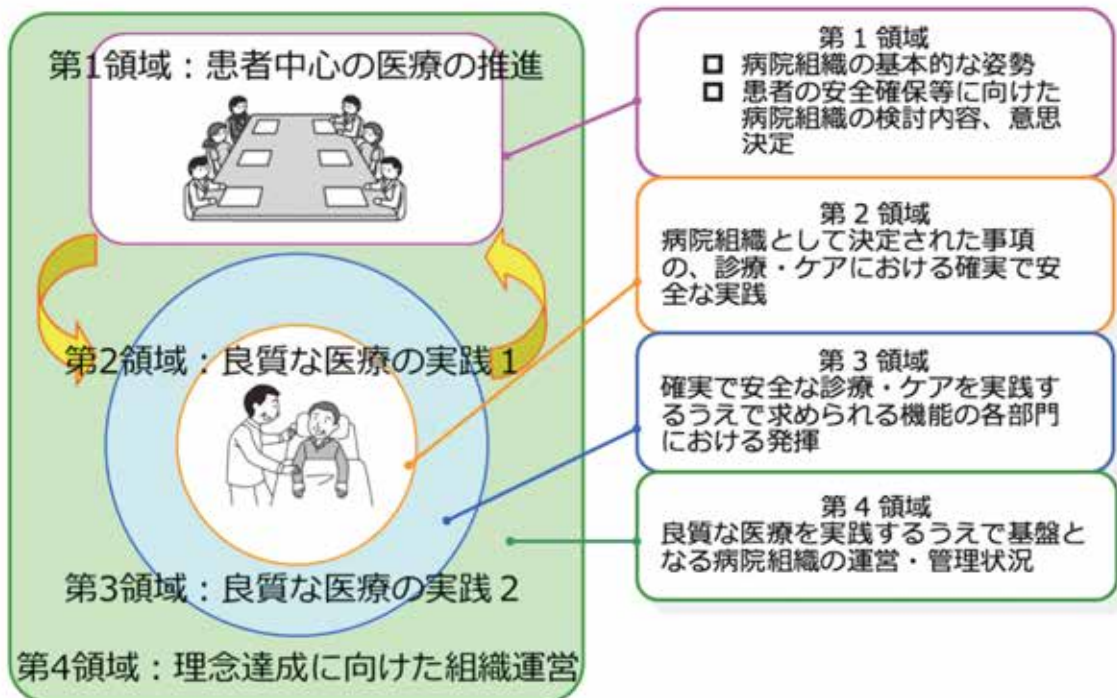
当センターは本年1月、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。今回我々が受けたのは、機能種別版評価項目<3rdG:Ver1.1>の一般病院2(急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院)でした。病院機能評価では、1領域「患者中心の医療の推進」、2領域「良質な医療の実践1」、3領域「良質な医療の実践2」、4領域「理念達成に向けた組織運営」の4つの評価対象領域について病院組織全体の運営管理および医療について評価をうけます。一定の水準を満たすと「認定病院」となり、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と認められます。

当センターでは平成14年3月に初めて病院機能評価Ver.3.1を受審し認定証を取得し、平成19年にVer.5.0、平成24年にVer.6.0と認定を継続してきました。本年が5年目の更新の時期となり、1昨年夏に病院機能評価推進会議を発足し、準備を開始しました。今回受けた3rdG,Ver.1.1は、プロセス重視の審査が特徴で、日常臨床に沿った医療が重要になります。院内の各職種で任命された担当者との合同会議を定期的に行い、評価項目の自己評価の実施、カルテの記載状況・環境整備状況の確認を行い、院内ラウンド、模擬審査を実施し、審査に備えました。こうして書面審査を経た後、平成29年1月12,13日の訪問審査を迎えました。6名のサーベヤーを迎え、各部署において準備してきた成果を発揮し、無事に審査を終えました。

審査では89の評価項目を「S:秀でて」「A:適切に行われている」「B:一定の水準に達している」「C:一定の水準に達しているとはいえない」の4段階で評価されます。今回、「他の医療関連施設等との連携」「医療関連感染制御」「薬剤管理機能」「リハビリテーション機能」「医師・歯科医師の臨床研修」に関連する項目でS評価をいただき、認定されました。一方、9つのB評価の項目を含め、今後取り組むべき問題点をご指摘いただきました。

今回の病院機能評価の受審により、多くの職員が病院の現状を把握し、各規定やマニュアルの整備・改訂、プロセスの改善に取り組むことができたと思われま。

認定期間は5年ですが、認定開始日より3年後に書面による確認(自己評価)がありますので、質改善活動への取り組みを続けたいと思います。



## 新任部長の挨拶・抱負

## 呼吸器外科部長

## 松本 真介

呼吸器外科専門医  
外科指導医・専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

呼吸器外科は肺癌（原発性、転移性）、縦隔腫瘍（胸腺腫、奇形腫など）、嚢胞性肺疾患（自然気胸、巨大ブラなど）、胸部外傷等の外科治療を担当しています。

当科で最も多く取り扱っている原発性肺癌は、いまだ予後の悪い腫瘍のひとつですが、手術によって根治が得られる患者さんもたくさんいらっしゃいます。肺癌の中には非常におとなしいタイプ（人によっては経過観察だけで良い）から、短期間で多発転移し手術では治すことができないものまであります。それぞれの方に対して、適切な時期に最適な治療（手術）を受けていただけるよう



に情報を提供しております。またI期の患者さんについては、手術後に肺癌連携パスを活用して掛かりつけの先生と一緒に診させていただいております。

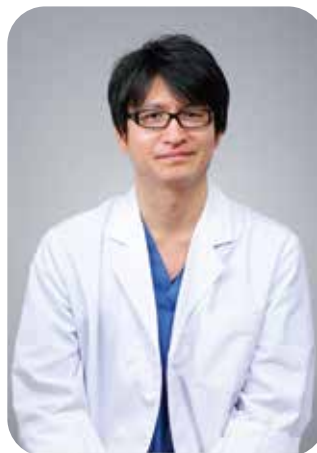
先生方よりご紹介いただいた患者さんに納得して手術を受けていただき、元気に自宅へ帰っていただけるように努力しておりますので、引き続きのご支援・ご紹介をよろしくお願い申し上げます。

## 胆膵内科部長

## 岩田 圭介

医学博士  
日本内科学会 総合内科専門医・認定内科医・指導医  
日本消化器病学会 学会評議員・東海支部評議員・専門医  
日本消化器内視鏡学会 学術評議員・東海支部評議員・指導医・専門医  
日本胆道学会 認定指導医  
日本膵臓学会 学会員  
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

胆膵内科では、消化器内科の一部門として主に膵臓、胆道（胆管、胆嚢）を対象に診療を行っております。胆石に起因する胆管炎や胆嚢炎、アルコールなどに起因する膵炎、各種腫瘍（特に膵癌と胆道癌）が代表的な疾患であり、内視鏡を用いた診断・治療と、癌に対する化学療法が診療の中心となっております。内視鏡診療としましては、ERCP関連手技に加えて、超音波内視鏡を使用した針生検や各種治療手技、胆管・十二指腸の



狭窄に対するステント治療なども積極的に行っております。また様々な疾患において、当院消化器外科の先生と情報を共有し、手術治療を含めた種々の治療が選択できるように検討を行っております。一方、この分野

においては、膵癌・胆道癌の予後が非常に悪いという大きな課題があり、治療効果の向上には早期に癌を発見することが大変重要であります。糖尿病の急な悪化、膵酵素や肝胆道系酵素の上昇、超音波検査での膵管、胆管拡張など、わずかでも膵・胆道領域の癌を疑う異常がありましたら、是非当院へ精査の依頼を頂けましたらと存じます。皆様のご指導ご鞭撻を頂けますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

チームの紹介

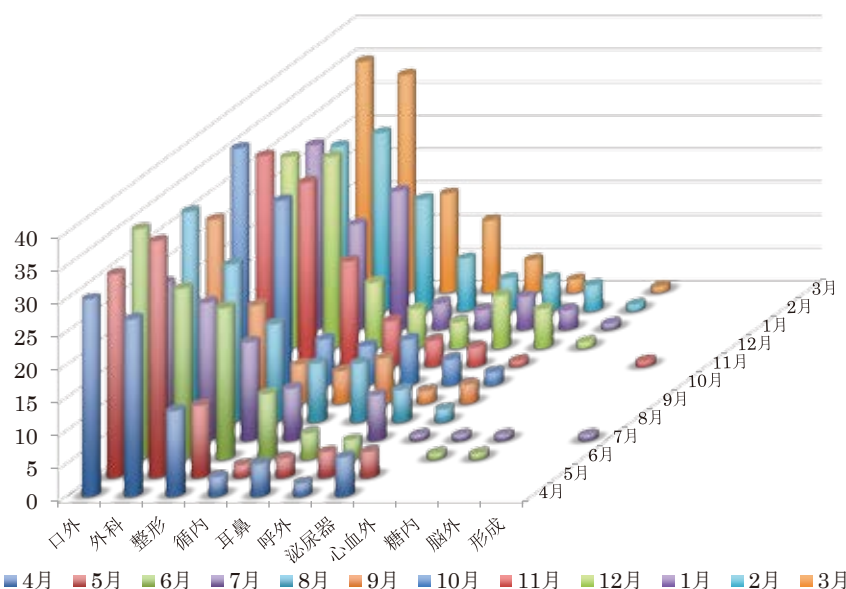
「口腔機能管理部会」発足から1年を経過して

口腔機能管理部会 部長 石丸 純一

2016年4月、当センターに口腔機能管理部会が発足して1年が経過しました。昨年度は周術期口腔機能管理の対象疾患拡大とその件数増加に精力的に取り組み、施行患者数は1,000件を超える勢いになってきました(グラフ1)。中でも整形外科、循環器科からの依頼が増加傾向であり医科側が口腔機能管理の有用性に気付き始めたと推察いたします。一方これを後押ししているのがDPCであります。DPCとは病名に対して決められた入院基本料、検査、投薬等の包括的支払い部分と手術、リハビリ等における出来高払い部分とを合算して入院治療費として支払われる制度です。簡単に言えば標準的な入院期間内に退院すれば、一日当りの報酬は多くなり、入院期間が延長すれば一日当たりの点数が低くなることとなります。つまりDPC対象病院にとっては合併症の併発は入院期間の延長となり経営を圧迫する要因となります。周術期口腔機能管理

は術後合併症を減少させるだけでなく、入院期間を減少させ、ひいては病院経営にも大きく貢献していることをご理解ください。周術期口腔機能管理は歯科口腔外科スタッフを中心に行われておりますが、件数の増加とともに当然毎日の仕事量も増大しており、外来運営の効率化、スタッフの増員が求められており今後の課題となっております。

グラフ1 平成28年度診療科別周術期口腔機能管理施行患者数



新しい取り組み

理学療法士から糖尿病療養指導士取得されました!

リハビリテーション部 岡崎 裕平

糖尿病は代表的な生活習慣病であり、様々な合併症を引き起こすリスクの高い疾患です。治療の三大柱のうちの運動療法は、誰でも容易に行うことの出来る有効な治療法であり、血糖値の是正、合併症の予防に繋がります。また、運動の種類、強度、時間、頻度を理解し実施する事でより効果が増強します。しかし、運動による身体へのリスクも考慮しながら安全に行う必要があります。

当院では、入院中の糖尿病患者の中でも、特に運動療法が必要と考えられた場合に、主治医から理学療法の介入依頼があります。また、入院中の患者のみでなく外来の患者も対象にした糖尿病教室を定期的で開催し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士からそれぞれ講義を行っています。そして、他職種のスタッフが集った糖尿病学習会も定期的に関き、専門分野による講義、症例検討を行い知識を共有しています。スタッフ間で共有し合った情報を、患者さんに提供していけるような体制を整えています。



オープン病床クリニカルミーティングが開催されました

【日時】 平成29年2月24日(金) 午後8時00分～9時30分  
 【場所】 岐阜県総合医療センター 講堂

トピックス

座長 地域医療連携センター部副部長 石田 健一郎  
 テーマ『当院における乳癌治療の報告』  
 乳腺外科 長尾 育子 形成外科 小野 昌史

連携症例カンファレンス

＜連携症例＞  
 神経難病 パーキンソン病 アポカイン導入症例  
 座長 神経内科部長 西田 浩



開放型病床利用での共同診療と在宅医療

登録医	新美クリニック 院長	新美 次男
入院主治医	神経内科	原田 斉子
退院サポート部	MSW	眞田 智衣
居宅介護支援事業所ハープ	ケアマネージャー	山本 寛子
もとす訪問看護ステーション	看護師	増田 順子



現場からの報告としては、乳腺外科 長尾育子医師および、形成外科 小野昌史医師が「当院における乳癌治療の報告」の講演を行ないました。現在乳房再建術が話題となっていることもあり参加者の皆様も真剣に傾聴されていました。

今回の検討症例はパーキンソン病で、当院神経内科医師、担当MSW、居宅介護ケアマネージャー、訪問看護ステーション看護師が共同診療を重ねていき円滑に自宅療養へ移行した症例であり、またアポカインを導入することによりQOLの改善を図ることができたという報告がなされました。その後に行われた討論でも参加者からは熱心な意見が出され、活発な議論がなされました。

このクリニカルミーティングを通じて、地域のかかりつけ医や当院医師をはじめ多職種の皆様がそれぞれの役割のなかで情報を共有し、患者様にとって最善の医療が提供されることが期待されます。

最後に開放型病床登録医の先生方や、訪問看護師、ケアマネージャーなどの皆様には、寒いなかを御参加いただきました誠にありがとうございました。

編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携広報誌 第33号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。



地方独立行政法人  
**岐阜県総合医療センター**

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

地域医療連携センター直通 TEL(058)249-0017

FAX(058)248-9334

発行/岐阜県総合医療センター地域医療連携センター